

## 嘉麻・上山田小6年生 長崎訪問で思いつづる



長崎を訪れ、詩を書いた上山田小の6年生

# 詩集で平和な未来訴え

嘉麻市立上山田小の6年生が80年前に原爆が投下された長崎を訪ね、感じたことや考えたことを1冊の詩集にまとめた。戦争はしてほしくない。友だちが死んでしまつたら、「苦しい」。マリイ像はそういつているように見えた」。惨禍に目を背けず、心に刻んだ子どもたちの言葉一つ一つが胸を打つ。詩集は市内の4図書館に寄贈され、地域の人たちにも「平和に暮らせる未来」を訴えかけている。

(原田克美)

## 被爆者の声に共鳴し「伝えたい」

長崎へは5月22、23日の修学旅行で訪問した。爆心地や平和公園、浦上天主堂などを巡り、被爆者が語る当時の惨状を聞いた。児童は真剣なまなざしで耳を傾け、積極的に手を上げ、質問したという。

例年、修学旅行から戻ると、感想文や壁新聞などで被爆地のことや感想を全校児童に紹介してきた。今回「気持ちダイレクトに伝える」と、担任の舟井綾子教諭(53)の提案で初めて詩をつづることになった。

「私は願う。人が人を殺すことがないように。人の手で人が死なないように」

「私たちに、知る権利がある。私たちは、戦争について知ることができる。(中略)今でも戦争があつている地域があることを知り、平和を願うことができる」

「おねがいだー折り鶴よ。」

2025年(令和7年)7月16日 水曜日



6年生が作成した詩集「平和の願い」

この世から人々が二度とこのような思いをしない世の中をつくらせてくれ」

29人による詩集は1週間足らずで編まれ、約50部作成した。タイトルは「平和の願い」と付けた。

「大勢の人たちに長崎のことを伝えてほしい」。長崎で聞いた被爆者の声に

共鳴し「自分たちがどう伝えていくか、そんな気持ちを強くした児童が多くなった」と舟井教諭。児童の思いを形にするため、4図書館に相談し、置いてもらうことになった。地元の山田図書館には5月末に詩集が届いた。担当者によると、ページをめくって熱心に文字を追う人や、問い合わせの電話もあるという。

詩を廊下に掲示したり、校内放送で自分の詩を読み上げたりしてきた児童は、8月6日の平和集会でも全校児童に活動を報告する予定。大石真也教頭(50)は地域の大勢の方が児童の思いに触れ、平和を望む気持ちが輪となって広がってほしい」と願っている。